

日本橋高島屋S.C.にて【日本の手仕事～鍛冶工房弘光展～】今年も開催！

いま島根ディスタンスが熱い！！

——逆境のなかで山間の鍛冶職人がつむぐ“ちょっとしあわせ”——

人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる地域をつくる

島根*創生
SHIMANE SOUSEI

『神々のふるさと』と呼ばれ、出雲、石見、隠岐の3つの地域からなる島根県。

人口は(令和2年4月県推計人口)66万8162人と、47都道府県のなかで46位。この島根県で、いまU・I・Jターンがじわりじわりと増えています。10～40代の県外出身者や島根県出身者が、なぜいま島根県をめざすのか、島根県へ戻ってくるのか。本レターでは、島根県へU・Iターンした人たちの仕事・暮らし・想いといったリアルな声を聞き、“しまね時間”の現在・未来をお伝えます。

「島根県へ移住する——そのリアル物語」第2回は、島根県安来市広瀬町にある「鍛冶工房 弘光」で鍛冶屋を営む、小藤宗相(こうしゅうすけ)さんを訪ね、このコロナ禍の逆境で発見した島根ディスタンス、島根の職人の温かみや優しさが込められたプロダクトの可能性、つくり手と使い手がつむぐ新しい価値観……などなどをお聞きました。

——山陰線 安来駅からクルマで30分。中海へ注ぐ飯梨川に沿って山間へと入っていくと、月山富田城の城下町、広瀬町。その小さな街を抜けてさらに山間へと入った先にあるのが布部集落。ここに「鍛冶工房 弘光」があります。「鍛冶工房 弘光」は奥出雲地方の山間で、江戸時代から10代続く鍛冶屋として知られています。



小藤宗相さん

この地に移り創業100年超えの「鍛冶工房 弘光」で、出雲鍛造の新しいプロダクトを国内外に発信し続けているのが小藤宗相さん、50歳。小藤さんは、信州大学経済学部を卒業後、都内の企業や島根県内の美術館で学芸業務を務め、「鍛冶工房 弘光」へ。島根県東部・奥出雲地方は、古くからたたら製鉄が盛んに行われ、その鉄を使った日本刀をはじめ農具刃物製造も行われていたエリアで、「文化度も高く、鍛冶職人の技術が磨かれてきた地域」と小藤さんはいいます。



左から小藤宗相さん、柘植由貴さん(宗相さんの実妹)
小藤洋也さん(宗相さんの父)、三宅大樹さん

鍛冶工房 弘光

代々続いている鍛造技法(刀剣鍛錬)を活かした製造法で、日本古来の燭台(しょくだい)から、現代の暮らしに合う灯りや花器、フライパンなども制作。現在では全国から注文が殺到し、“納品半年待ち”という大人気プロダクトもあるほど。“いまの鍛冶工房弘光があるのは、この一冊に出会えたから”というのが、『灯火器百種百話』(著/瀧澤寛)。祖父と父が表紙に描かれている江戸時代の灯火器をみて、『これだったらうちもつくれるんじゃないか』ということで瀧澤氏に頼み込み、現物を貸してもらうことに。そこから1か月が3か月、そして半年と、復元の苦悩が続きましたが、この経験こそが「鍛冶工房 弘光」の新たな可能性に気づききっかけとなりました。



<取材に関するお問い合わせ先>

島根県 政策企画局 広聴広報課 広報戦略スタッフ 福岡

TEL : 0852-22-5757 / Mail : fukuma-takeshi@pref.shimane.lg.jp

ご参考

島根県への移住・定住の総合相談窓口——ふるさと島根定住財団 <https://www.teiju.or.jp/>
島根県最大級のしまねUIターン総合サイト——くらしまねっと <https://www.kurashimanet.jp/>

みんながちょっとずつ しあわせになるフライパン

—誕生秘話と込められた想い—



人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる

島根創生
SHIMANE SOUSEI

■ コロナ逆境が生んだ“鍛冶屋のフライパン” 刀や燭台のノウハウを応用、鍛えた肌は月面のよう

物産展・展示会の相次ぐ中止でコロナ禍の逆境に立たされたこの春、以前からの「フライパンをつくってほしい」という知人の依頼に背中を押され、フライパンの制作に取り組みました。初の試みでしたが、フライパンの柄は、刀の鍔を鍛える際の持ち手だった柄を、フライパンのパン部分は燭台の台座をつくる技術を応用したため、最初の試作品はあっという間に形になりました。このフライパンは鍛冶屋の技術が詰め込まれていて、市販の量産モデルとは違った機能性・つくり・風合い・肌感があります。出来たばかりのパンの肌は「お月さんみたい」ともいわれます。機械プレスや鋳造による成形ではなく、鍛えて出てきたパン肌はまるで月面のような神秘さを放ちます。

また、柄とパンをつなぐ「みつがしめ」という技法も、鍛冶屋の技。現在、新たにオープン・グリルでの調理や流行りのソロキャンプでの調理にも使い勝手の良い、一回り小さいサイズのものも制作しており、こちらも好評です。

■ 島根クラフトマンの粋、オリジナルセット「みんながちょっとずつしあわせになるフライパン」に結実

フライパンの完成後、鍋敷きや手入れ用たわしがあれば便利だなと思い、それらをフライパンとセットで販売することを思いつきました。そこで、同様にコロナ禍で逆境に立たされた職人仲間たちに依頼し、この鍛冶屋のフライパンとセットになるプロダクト、組子・木工の鍋敷き、革のフック、手入れ用たわし、そしてセットを包む石州和紙のバッグもそれぞれが持つ技術を集めて制作しました。

このフライパンセットは、まずそれぞれの“つくり手”が新たな仕事を得て“ちょっとしあわせ”になる。そして買ってくれた人、その家族などの“使い手”が、このフライパンで調理した料理でおいしさ・楽しさを感じる、“ちょっとしあわせ”になる……ということで、「みんながちょっとずつしあわせになるフライパン」と名付けました。

■ 島根の“距離”と目に見えないものが“つながり”を生む幸せ

コロナ禍、ソーシャルディスタンスによって物理的な距離がさらに大きくなったからいまだからこそ、人とのつながりやそのあたたかみを感じるモノ・コトに注目が集まっています。たとえば、このフライパンセットひとつをとっても、スーパーや量販店で売っている量産品をあえて選ばず、はるか遠い、まだ訪れたことのない山間の鍛冶屋でつくられたものを選んでくれる人がいる。きっと、こうした人は“いま見えている世界じゃない、そこには価値”を実感しているのでしょう。そこには、手仕事のよさ、関わる人たちの想い・温もり・優しさなどを共有したいという想いがあるのだと思います。

■ 心の距離を縮めてくれる役を担う島根、島根のプロダクトを手にして実感してほしい

島根のような「都会から遠い地」の職人たちが生み出す焼き物や織物、食べ物といったプロダクトのほか、人柄や景色といった無形の価値こそが、いま人々の心の距離を縮めてくれるものだと思います。12月9日から15日までの1週間、東京・日本橋高島屋S.C.で「日本の手仕事～鍛冶工房弘光展」を開催します。大量生産の時代が終わったいま、あらためて島根の魅力を知ってもらえればと思います。



〈鍛冶工房弘光〉 出展情報

『日本の手仕事～鍛冶工房弘光展～』

期間：12月9日(水)～12月15日(火)

場所：日本橋高島屋S.C. 本館7階

鍛冶工房 弘光 — <https://kaji-hiromitsu.com/>

島根の伝統技術を支える作家5人を紹介 — シマネRプロダクト <http://shimane-r-product.com/>

島根県への移住・定住の総合相談窓口 — ふるさと島根定住財団 <https://www.teiju.or.jp/>

しまねUIターン総合サイト — くらしまねと <https://www.kurashimane.jp/>

ご参考